

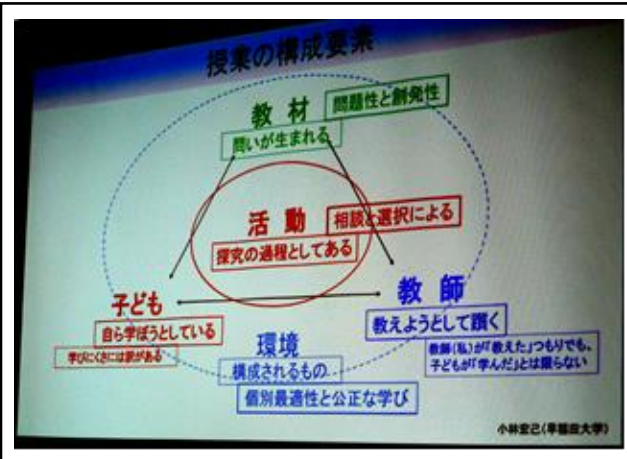
★校内研だより★

2024.8 文責 ○○

【2024. 8. 26全体会 指導助言者（○○先生）の講演より学ぶ】

演題「学び合い、高め合う子どもの育成～自ら考え判断し学んでいこうとする児童の姿～」

○授業の構成要素について



授業の構成要素（子ども・教材・教師・活動）

授業とは、子どもと教師の間で行われるもの。その間に教材があり、この3つをつなぎ合わせるものに活動がある。活動を通じて、教材、子ども教師がつなぎ合っていく。子どもは、「おもしろいな」と思うと学びだすし、本来、前向きでできるようになりたいと思っている。子どもの見取りを大切に、子どもが学びたくなるような手立てを講じてゆく。

先生がおもしろいとおもっていないものは、子どももおもしろくないと感じてしまう。よい教材は「なぜ」「おや」「どうして」など、問いが生まれるもの。教師がその教材をおもしろいと思っているかを考えることが大事。

○ビデオ視聴（感想交流・グループ協議）

3年社会科

昔探検隊、出発～町の昔のくらしと比べてみよう

「昔のよいことは今でもできるかどうか」

〈ブロックテーブルでのワークショップにて〉

- ・今日の授業でなにをするのか、子どもたちが分かっている。
- ・自分から進んで、準備をしたうえで授業がスタートしていた。
- ・ノートだけでなく、他者の話を聞いてさらに自分の意見を持つ。
- ・学びたい思いがあふれている。



〈グループ協議にて〉

- ・体験や活動、友だちとの関わりを通して自らの考えが深まる。
- ・自分事として学習問題をとらえ、実際に体験して感じたこと考えたことを相手意識をもって伝える力が養われている。
- ・全員が学びの楽しさを感じられるようにするためには…。

○指導助言者（○○先生）より

- ・その子らしい話し方◎あいまいな言い方から、その子の感性、感情がわかる。
板書にも、思いがまとまらないときは、…とする。
- ・教師と子どもの関係をフラットにする。垂直関係から、水平的な関係へ。
（常に上に立っていて、教えていくではない。）
- ・マルかバツかより、子どもたちの言ったことの良さを味わう。→安心や信頼につながる。
- ・別紙「主体的な学習に取り組む態度」に通じる問題解決的な学習行動は、子どもと一緒に相談、選択をしてつくっていくことが、主体的な学びにつながる。
- ・個別最適な学びと協同的な学びは表裏一体。一人ひとりを見取ることが大事。
- ・話型も含めて、教師の働きかけは、きっかけであって、ゴールではない。
（×しなさい ○「どうかな？」と子どもに聞く）

今後の授業で生かしていきたいこと

・授業づくり（単元づくり）

・子どもの学び、興味関心



クラスの流れを教師が意識

系統性 （１）学問

（２）子どもの思考

研究主題の実現に向けてグループ協議で挙げた不安や課題

「学びたい」の興味

- ・単元全体を通しての１時間目にどう子どもと教材が出会えばよいのか
- ・子どもが「学びたい」と思うようにするための工夫
- ・現在の子どもの興味はどこにあるのか

子どもの主体性と支援のバランス

- ・「支援を必要とする子どもたちへの配慮」と「主体的に学習を進めていける子どもたち」の両立の難しさ
- ・話し合ってばかりいないか？どこまで任せるか？

見とり

- ・校内の先生の日常の子どもを見とる手段を知りたい
- ・一人ひとりの見とり（本当の想いや願い）

学びにくさ・みんなで学ぶ

- ・学びにくさには訳がある→インクル的な学びのコツは？
- ・話すことに抵抗がある子への手立てはどうすればいいか
- ・教室を安心感でいっぱいにするためには？
- ・小林先生の授業映像の時代に比べて、今は教室でみんなで学ぶための土台が揃っていないように感じる。みんなで学ぶ土台とはどのようなものか考えたい
- ・クラス全員が同じ学習課題に対して興味をもって取り組むことは可能か。

授業の具体

- ・板書計画をどんな風に考えているのか
- ・本時の終わり方は
- ・ノートづくりの仕方は

子どもたちで発言しあう授業の手立て

- ・子どもたちだけで発言、子どもたちがつなぐ学習を行うにはどう指導すればいいのか
- ・どのように発表や意見を出せるようになるための過程を知りたい
- ・教師が相談役&板書に徹せられるようになるには（どれ位の時間で集団として育つのか）
- ・話型（聴型）は発達段階（学年）に応じて、どこまで指導していますか
- ・聴き手の育て方は
- ・それぞれの思いの違い（合意形成にまとめる難しさ）をどうしていくか

